

子育てコラム21 parenting column

子育ては楽しいこともあるけど悩みもたくさん。
そんなママのための役に立つアドバイス。

「お手伝い」

子育ての場で「お手伝いはいつからどんなことをさせたらいいですか」といった声が聞かれます。それとともに「子どもはやりたがるけど、家事が進まないのだからさせていません」という声も聞きます。

子どもはハイハイをするようになり、つかまり立ちを覚え、歩き出すことで、視界も行動範囲も広がります。それに伴い好奇心が旺盛になり、周囲の探索を始めます。そして大人がしていることに興味を持ち、同じようにやってみたくくなります。それがお手伝いの始まりです。その時、よけい時間がかかるし片付けが大変になるからといってさせないでおくと、大きくなって「少しは手伝いをしなさい」になりかねません。家の用事はたくさんあり、それをこなすには段取りが必要です。二つ以上のことを考えながら行動できる力も身に付きます。身辺自立にもつながります。幼少時は全て楽しい遊びの感覚でそれらを身に付けます。そしてできるようになるには、うまくできなかったという過程も大事です。うまくできないことがあるからこそ要領がよくなります。“うまく

できなかった”ということは、結果を知っている大人の感覚であって、子どもにとっては貴重な体験です。大人から認められないと、嫌になったりしんどくなったりして“できるようになる”という結果につながりません。大人の「こんなことができたんだね。この間よりうまくなったよ。すごいね」の言葉と笑顔が、子どもの達成感や、“もっとしたい”につながります。

お手伝いは、家族間のコミュニケーションの場です。家族と一緒に、生活していく上で必要な力を幼少時から身に付けていきましょう。本来子どもは、親のそばで何かをすることやお手伝いが大好きなのです。



めぐみ保育園 園長
弘田 恵子

めぐみ保育園園長。22歳で助産師になり、4年間高知の総合病院産婦人科でさまざまな出産に立ち会う。26歳から大阪府立母子保健総合

医療センターのNICUで、6年間未熟児や障害のある赤ちゃんのケアをし、その後堺市で母乳育児相談室を仲間と開設。19年前から高知市内の保育園で、日々子どもたちと楽しく暮らす。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。

